

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	自由に、その個性に応じて時代感覚をもった学種豊かな世界人の育成
年度重点目標	豊かに自分らしく生きるため、自分を変える「勇気」と自他を受け入れる「愛」を育み、安全・安心な社会の構築に貢献する生徒を育成します。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指す。 【全コース共通】 ○ 目指す4つの資質・能力 1 <主体的学習態度・何度でも挑戦する粘り強さ>個性を磨き、自己実現のため何度でも挑戦する姿勢 2 <課題発見提案力・社会文化探究心>社会とつながり、そのなかで課題を発見し、解決を提案する力 3 <コミュニケーション能力・リーダーシップ>身の回りの状況を把握し、他者とつながり、集団を動かす力 4 <他者協働力・他者受容力>他者の気持ちや置かれている立場を想像・理解し、多様性を認め合う態度	これらに加えて、 【英語コース】 多彩な英語学習の機会に触れることによる、英語の運用能力・相互理解力・グローバルな思考力 【書芸コース】 書の学習を通して文化と伝統を学ぶことによる、創造性豊かな感性・書道文化の発展に寄与する態度や能力	
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	本校では、3つのコースの特性を生かしたカリキュラムを編成し、桜井高校でしか行えない「学び」を学び、自分の得意や興味・関心を伸ばす教育を実施します。 【全コース共通】 ・自己管理能力を獲得し、社会で生きる力を養うプログラム…ノーチャイム、ポートフォリオ ・基礎的学力を養うプログラム…オンライン学習 ・情報収集を行い活用する力を養うプログラム…ICT教育 ・安全や健康の管理を実践し、心身の健康を育むプログラム…部活動、三輪山走歩大会 ・コミュニケーション能力・リーダーシップを高めるプログラム…フューチャーセンターの活用、生徒会活動	・多様性を認め合い、人間的魅力を磨くプログラム…人権学習会、異文化交流 ・集団や社会に貢献する態度を伸ばすプログラム…地域連携、社会貢献活動、キャリア教育 ・得意分野を発見し、とことん探究するプログラム…カリキュラム選択、総合的な探究の時間 ・批判的思考力を養い、表現するプログラム…アクティブ・ラーニング、プレゼンテーション ・将来像(夢)を確立し、自己実現を目指すプログラム…キャリアデザインルーム、インターンシップ	【英語コース】英語の運用能力・相互理解力・グローバルな思考力を獲得するプログラム…イングリッシュキャンプ、海外修学旅行、高大連携 【書芸コース】知識・技能と芸術性を獲得するプログラム…T・T授業、卒業書作展、海外修学旅行、高大連携
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	本校では、「本校の使命」及び「教育方針」を理解し、その達成を目指す意欲に溢れた生徒を受け入れます。 特に、英語コース及び書芸コースにおいては次のような生徒を受け入れます。 【英語コース】 英語への興味・関心が強く、入学後は総合的な語学力や幅広い教養を身に付けたいという姿勢や意欲があり、将来は国際社会で活躍したいと望む生徒 【書芸コース】 日本や中国などの東洋の伝統文化である「書」に興味・関心を持ち、入学後は積極的に「書」と向き合い、より深く学びたいという熱意や意欲がある生徒		

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. ころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康教育の充実	「健康に関する指導が適切」と回答する生徒の割合 85%以上	昨年度の84%を上回る数値。	さまざまな方面から感染症対策・予防に対してアプローチをかけ、生徒もよく理解して日々の生活に生かした。本年度の学校生活アンケートは85.3%であった。	感染症による出席停止が非常に多くなる時期があり、対策の必要性を改めて理解した。	来年度以降も数値が上がるよう継続して取り組んでほしい。	感染症の対策・予防をいろいろな場面で指導した結果、目標値を上回ることができた。今後、継続して実施する。
	望ましい運動習慣の確立	スポーツテストのスコア54ポイント以上の生徒の割合 50%以上	目標値の50%以上を目指す。	入学当初より学年が進むごとに、体力・健康に対する意識が高まってきている。本年度の新体力テストは44%であった。3年生は49%であった。	1年生の段階でもう少しアプローチをかけ各種目・健康に対する知識をレベルアップさせたい。	来年度以降も数値が上がるよう継続して取り組んでほしい。	入学当初にもっと体力・健康に対する意識をもたせる取り組みをさせる。
	豊かな教養の獲得	図書館を利用した生徒延べ数 3,000人以上	昨年度の利用者数(3,199人)を上回る生徒延べ人数。	2月14日現在で図書館利用者数は2,215名であった。(達成度73.8%)	新規導入図書、特に郷土学習、総合学習関係が増え、総合情報源としての役割を果たしていきたい。	活字離れ、本離れが進む中、様々な広報活動を工夫し、取り組んでほしい。	教科学習の中で、図書館の利用をする。また、様々な方法で広報活動に取り組む。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びによる授業の実施	「授業に対して全般的に満足している」と回答する生徒の割合 85%以上	目標値の85%以上を目指す。	学力向上実感度は、82.2%にとどまった。	本年は、「学力向上実感度」は目標数値に到達できなかったが、公開・研究授業週間を軸として、より一層の指導方法・内容の改善充実の推進を図りたい。	学習指導要領が改訂された中、自己評価や授業アンケート結果の高い評価から教員の努力がうかがえます。	学力向上につながる授業についての研修会をもつ。
	主体的学習態度の育成	ノーチャイムで自分から動くことを心がけ実践する生徒の割合 100%	アンケートで90%を上回る回答を維持できるようにする。	全学年平均91.4%(1年86.2%・2年93.7%・3年94.2%)	ほぼ目標達成ができたものと考えている。	自ら考え行動する力が徐々にではあるが身につけていることがうかがえる。	生徒アンケートでは達成できているようになっているが、実際に達成できているのか現場の職員からは、達成できていない声がある。今後、自己管理ができるようチャイムを再開しながら自己管理をさせチャイムを無して生活ができるよう指導していく。
	家庭学習習慣の定着	1日平均60分以上自主的な学習をする生徒の割合 75%以上	昨年度の実績を上回ることを目指す。	1日平均60分以上自主的な学習をする生徒の割合 全体44.9%(1年38.6%、2年37.2%、3年59.0%)にとどまった。	目標を達成できず非常に残念である。新学習指導要領に伴う学習評価の在り方が、生徒の自主学習へ悪影響をもたらしていると判断する。	家庭での学習の習慣が身につくようさらに指導していただきたい。	生徒の日々の家庭学習が定着し、学力向上が見られるようにさらに取り組んでいく。
	学校における働き方改革	ICTを活用した校務の効率化を図る。月1度の定時退校日の設定。	学期に1回の定時退校日の設定。	学期に1回の定時退校日は達成できた。	ICTを活用し勤務の効率化を図り、働き方改革をさらに推し進めていきたい。	創意工夫し教職員の働き方改革を進めていただきたい。	このまま継続し、来年度は月に1度の定時退校日を設定する。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	自己管理能力の育成	1年生で「1週間の計画を立てられるようになった」と回答する生徒の割合 60%以上	GoodBadNextタイムを使い、昨年度の55%を上回ることを目指す。	1週間の計画を練ると共に、週末に自分を振り返り、現在の問題点に気付かせる取組を行ってきたが、活用できたと答えた生徒は1年生で約20%であった。	残念ながら、目標を達成することはできなかった。	時代に合った取組を模索していただきたい。	導入の仕方を生徒が身近に使っているアプリを使うなど工夫し、生徒が振り返りをしながら計画的に生活を送ることができるよう改善する。
	進路情報の提供の充実	「進路行事等で自分の進路に関する情報を得られた」と回答する生徒の割合 70%以上	目標値の70%以上を目指す。	74.6%の生徒が、進路に関する情報を得られたと回答した。	ほぼ目標達成ができたものと考えている。	来年度以降も数値が上がるよう継続して取り組んでほしい。	次年度も、内容の濃い生徒のニーズに合った進路ガイダンスや情報提供等を行っていく。
	キャリア教育の推進	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップに参加した生徒の割合 25%以上	目標値の25%以上を目指す。	現在、インターンシップの受け入れ枠に制限があり、希望生徒が全て参加できなかった。そのため数値は15%にとどまった。	インターンシップだけにこだわらず、もっと広くキャリア教育を捉えていく必要性を感じている。	就職希望の生徒が少ないが将来を見据えた進路指導をしていただきたい。	春、夏、冬の3期に渡って行われるインターンシップへの参加希望生徒は年々増えているようで、このまま啓発活動を続けていく。ただ、偏った業種にならないよう、いろいろな業種での会社を用意する。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	主体的活動への参加意欲の向上	ボランティア活動に参加する生徒の割合 80%以上	80%を上回る回答を維持できるようにする。	72.7%の生徒がボランティア活動に参加した。(3年生82.8%、2年生74.3%、1年生61.5%)	多くの生徒が参加し、河川敷を中心に学校周辺の清掃に精力的に取り組んだ。	1年生にもボランティア活動の意味が伝わるよう取り組んでいただきたい。	参加することで、充実感や達成感を味わい、次年度のボランティアやその他の主体的活動に参加しようという意欲を醸成できるようなボランティア活動にする。
	社会参加活動の推進	様々な活動を通して主体的な社会活動への参加意欲が向上した生徒の割合 70%以上	70%を上回る回答を維持できるようにする。	67.4%の生徒が社会参加活動に参加したと回答した。	ボランティア、募金、献血等に多くの生徒が参加した。	来年度以降も数値が上がるよう継続して取り組んでほしい。	参加したいという生徒の思いを行動に移せるように、社会参加活動の機会設定や案内を充実させる。

	社会的マナーの遵守	「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と回答した生徒の割合 95%以上	アンケートで95%を上回る回答を維持できるようにする。	全学年平均97.3% (1年96.2%・2年97.5%・3年98.4%)	ほぼ目標達成ができたものと考えている。	社会のルールやマナーが身につくよう、粘り強く指導していただいている。	このまま継続し、来年度のアンケート結果も満足のいく結果になるよう努める。登下校指導や集会等を実施し、日々、緊張感をもって自ら行動できるようにし、自分の身は自分で守れるように徹底する。地域の方々や近隣学校、自動車学校、警察等さらなる連携を深める。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権意識の向上	「人権や命について学ぶことが多かった」と回答した生徒の割合 90%以上	90%を上回る回答を維持できるようにする。	アンケート結果は、93.4%でほぼ昨年と同じ結果が出てきている。	学習内容等を先生方がきちんと理解し生徒にしっかり伝えている成果である。	来年度以降も数値が上がるよう継続して取り組んでほしい。	人権HRの時間に、事実を教えることはもちろんであるが、生徒が考え生徒同士で話し合える時間をさらに増やすことによって、生徒の人権意識をさらに向上させられるのではないかと考える。そのため参加型HRの例を担任に紹介できるように研修する。
	環境整備意識の醸成	校内を美しく保つことを意識している生徒の割合 90%以上	90%を上回る回答を維持できるようにする。	94%の生徒が「校内を美しく保つことを意識している」と回答した。	美化活動を継続的にを行い、学校の環境は守られているが、さらに自主的に活動できるよう促していきたい。	来年度以降も数値が上がるよう継続して取り組んでほしい。	美化委員の活動や当番としての活動だけでなく、日常的な美化活動を積極的に行うよう促していくことが大切。掃除用具の点検、補充、校庭の落ち葉掃除など、今後も継続して美化委員を中心に活動を行う。
	特別支援教育の推進	生徒支援委員会を月に1回開催し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、個別の支援計画を作成する。また、SCを積極的に活用する。	学期に1回の生徒支援委員会の開催。	SCや担任、学年主任、養護教諭等と連携を取りながら生徒の支援に当たった。来室2回以内で精神的に安定した生徒は約56.3%であった。43.7%の生徒については、継続したカウンセリングによって精神の安定を得ている状態である。	SCについては積極的に活用できている。情報共有については、守秘義務との関係で担任、学年主任との個別の情報共有が基本であったが、必要な場合については全教員で共有した。	ますます教育相談の需要が高まると思うのでこれからも、取組を進めていただきたい。	このまま継続していき、必要とあらば、生徒支援委員会の回数を増やす。
	課題解決提案力の育成	フューチャー・センターが役に立っていると感じる生徒の割合 60%以上	60%を上回る回答を維持できるようにする。	3年生50.2%、2年生43.2%、1年生47.9%が役に立っていると回答した。	ホワイトボードやモニター等の設備の有効活用や、座談会等イベントの設定が十分ではなかった。	なんとか有効活用ができるような取組を進めていただきたい。	フューチャーセンターを、生徒の未来を考え、語り合う場として、ホワイトボードやモニターの活用や座談会等イベントの充実を図る。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

中期計画の2年目ということで最終目標の達成を目指して各項目で様々な取組を進めた。子供を桜井高校に入学させてよかったという保護者アンケートにおいては95%がそのように感じ取っていただいている。各項目で最終目標数値をすでに上回っている項目もたくさんあり、一定の成果を感じています。まだまだ数値に到達していない項目について、試行錯誤を重ねながら達成できるように、来年度取り組んでいきます。※「本校に入学してよかった」と感じている生徒の割合 92% (昨年度 93.5%)